

令和6年度 日野市立第四幼稚園経営重点計画				自己評価シート		令和6年6月公表	
★幼稚園の教育目標					○よく遊ぶ元気な子 ○よく考え意欲をもって取り組む子 ○豊かに感じて表現する子		★重点計画の概要 「つながろうプロジェクト」 「すべての”いのち”がよろこびあふれる今と未来をつくっていく」ことにつながる、四幼在園児・卒園児・保護者・職員・地域の方々が主体の取組 園児が家族や四幼に関わる様々な人たちと関わり、一緒に体験を楽しむ中で、そこに関わる人たちがつながりや幸せ感を感じられる教育活動を実施する。
★目指す幼稚園像（ビジョン）							
【目指す園児像】					○やりたいことに夢中になれる子 ○必要な約束やルールを守ろうとする子 ○おもしろさや不思議さを感じ考える子 ○やってみたいことに粘り強く取り組む子 ○ありのままを素直に表す子 ○自分の気持ちや経験したことを話したり、話を聞いたりする大切さや楽しさがわかる子 人や動物等の生きるものとの触れ合いを通して、共に生きる喜びや生命（いのち）あるものをいたわり大切にする子		
【目指す幼稚園像】					○笑顔と優しさと幸せ感があふれる幼稚園 ○すべての子どもを真ん中に、一人一人を大切に保育を進める幼稚園 ○園・保護者・地域の方々と一緒に子どもを育てる幼稚園		
【目指す教師像】					○かけがえのない”いのち”を預かる責任をもち、深い愛情を子供たちに注ぐ教師 ○組織の中で自分の役割を担い、教師同士で学び、支え合い、自分を高めていける教師 ○家庭・地域と連携を図り、信頼される教師		
領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準			
				取組指標	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	生きる力の基礎となる知識や技能を活用するために思考力・判断力・表現力を高める。	自分たちの生活がより豊かになるように、考えたり工夫したり挑戦したりなどの経験を繰り返しながら、興味・関心をもち進んで活動に取り組む。	子供が課題や目的や自分の役割を意識し、仲間と協力して取り組む活動を繰り返し行う。	4 子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り組めるような指導を計画的に行うことが90%できた。	4 自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が90%いた。		
				3 子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り組めるような指導を計画的に行うことが80%できた。	3 自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が80%いた。		
				2 子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り組めるような指導を計画的に行うことが70%できた。	2 自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が70%いた。		
				1 子供が課題や目的を理解し自分の役割を意識しながら活動に取り組めるような指導を計画的に行うことが70%未満しかできなかった。	1 自分の課題や目的を理解し自分の役割を意識して進んで活動に取り組んだ子供が70%未満だった。		
	”生命（いのち）”を大切にしようとする意識を高める。	いのちあるものの育成に関わる体験を通して、”生命（いのち）”の意味を感じ、自分がそれに対してどう関わらなくてはならないかを学ぶ。	いのちの意味を知ったり、いのちを維持させるための自分の関わり方を学んだりするために、お米や野菜、草花等の植物の栽培や生き物の世話を行う。	4 植物の栽培や生き物の世話の体験を年間計画に位置付け、生命（いのち）を感じられる取組を90%行うことができた。	4 世話に進んで関わろうとする子供が80%いた。		
				3 植物の栽培や生き物の世話の体験を年間計画に位置付け、生命（いのち）を感じられる取組を80%行った。	3 世話に進んで関わろうとする子供が70%いた。		
				2 植物の栽培や生き物の世話の体験を年間計画に位置付け、生命（いのち）を感じられる取組を70%を行うことができた。	2 世話に進んで関わろうとする子供が60%いた。		
				1 植物の栽培や生き物の世話の体験を年間計画に位置付け、生命（いのち）を感じられる取組を70%未満しか行えなかった。	1 世話に進んで関わろうとする子供が60%未満だった。		
みんなの多様な学びとしあわせをつくる	一人一人のニーズに応じた教育環境の充実を図る。	子供たち一人一人が個性を発揮する喜びや、友達と一緒に生活する喜びを感じる。	子供の発達の特性や個性など、実態の把握に努めるとともに、言動や内面、心の動きについて、全職員で意見交換・情報交換を行うことで幼児理解を深め、指導体制を充実させる。	4 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に4回以上行った。	4 自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が80%いた。		
				3 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に3回行った。	3 自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が70%いた。		
				2 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に2回行った。	2 自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が60%いた。		
				1 職員間で指導と支援の内容や方法の工夫について、情報共有や話し合いを各学期に1回行った。	1 自分の力を発揮し、友達と一緒に生活することを喜んだり楽しんだりした子供が60%未満だった。		
	子育て支援の充実を図る。	地域と共にある幼稚園として、子育て支援の充実を図る。	「なかよしきっず」「ぶちっこ組」「にこにこデー」等の未就園児の日に、幼稚園教育に関する情報を提供したり、理解を広げたりできる機会となるよう、在園児との交流や幼稚園の活動や行事に参加できる機会を設ける。	4 未就園児や保護者にとって豊かな体験となるように、活動内容を工夫して進めることができたのが90%以上だった。	4 未就園やその保護者に喜んで関わろうとする子供が90%以上だった。		
				3 未就園児や保護者にとって豊かな体験となるように、活動内容を工夫して進めることができたのが80%以上だった。	3 未就園やその保護者に喜んで関わろうとする子供が80%以上だった。		
				2 未就園児や保護者にとって豊かな体験となるように、活動内容を工夫して進めることができたのが70%以上だった。	2 未就園やその保護者に喜んで関わろうとする子供が70%以上だった。		
				1 未就園児や保護者にとって豊かな体験となるように、活動内容を工夫して進めることができたのが70%未満だった。	1 未就園やその保護者に喜んで関わろうとする子供が70%未満だった。		
社会と未来に開き、みんなで作る	地域の方や保護者を活用した体験の場を通して、多様な立場の人の存在を知り、関わり方を学ぶ。	地域の方や保護者の協力を得た多様な体験の中で、喜びや感謝の気持ちを通して、多様な人との関わり方を知る。	子供が喜びや感謝の気持ちをもち、進んで取り組むことができるような活動を、地域の方や保護者と協働して計画する。	4 子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたいくなる活動を計画通りに行った。	4 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表現した子供が80%いた。		
				3 子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたいくなる活動を計画の90%行った。	3 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表現した子供が70%いた。		
				2 子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたいくなる活動を計画の80%行った。	2 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表現した子供が60%いた。		
				1 子供が喜びや感謝の気持ちを表現しながら進んで取り組みたいくなる活動を計画の80%未満の実施だった。	1 地域の方や保護者に、体験した喜びや感謝の気持ちを表現した子供が60%未満だった。		
	幼保小連携を推進する	第四小学校との交流や近隣保育園合同の交流の実施、また幼児教育研修会を通して教員・保育者が互いに学び合い、資質の向上を図る。	幼保小連携に関する計画を基に、第四小学校や近隣私立保育園が交流を実施し、教員・保育者が対面して情報共有や意見交換を行う。また、第四幼稚園で実施する幼児教育研修会の場を通して、異校種の教員・保育者が互いの保育・教育を理解し合う場を提供する。	4 交流や連携活動について、互いのねらいを理解し合いながら指導を行った。	4 交流や連携活動を通して、小学生や保育園児に親しみをもった子が80%以上だった。		
				3 実施した交流や連携活動について情報交換や意見交換による反省をいかしながら、次の計画を立案した。	3 交流や連携活動を通して、小学生や保育園児に親しみをもった子が70%以上だった。		
				2 交流や連携活動について情報交換や意見交換を、顔を合わせて行った。	2 交流や連携活動を通して、小学生や保育園児に親しみをもった子が60%以上だった。		
				1 交流や連携活動について、顔を合わせた情報交換や意見交換を行うことができなかった。	1 交流や連携活動を通して、小学生や保育園児に親しみをもった子が60%未満だった。		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。